

● 地震防災の専門家・福和伸夫教授に聞く。  
(都市環境学専攻教授 建築防災学)



地域の大学には、自分たちが住んでいる地域を守るといって重要な使命があります。そのため、「安全安心プロジェクト」として「ヒト」「コト」「モノ」の3つのプロジェクトを展開しているのです。

まずは「ヒト」を育成し意識を変えること——教育と啓発ですね。大学の一番の役割は学生の教育です。それに加え社会への教育・啓発の貢献です。僕は、あらゆる防災教育や啓発の機会をとらえて出かれます。

「コト」は研究。具体的には大学の個々の研究成果の作成と仕組み作り。一つの例が「高解像度ハザードマップ」と「地域防災力向上シミュレータ」の作成です。また「ホームドクター計画」では、大学が地域のホームドクターになると宣言しました。今までのプロダクトアウト的な大学の社会還

地道な人との  
ネットワーキングづくり。  
大学人は  
良き応援団になる。



啓発と育成  
大人から子どもまで具体的に理解できるよう、さまざまな道具を作り、講演会、ワークショップ、防災スクールに出かける。



高解像度ハザードマップと地域防災力向上シミュレータ工学、社会学、心理学、情報...大学の「知」を結集して、住民が現実感を持って地域の情報を理解できるシステムを構築した。

元とは違ったマーケットインの視点で、様々なモデルを作っているのです。あわせて、社会が協働する仕組み作りをしています。その成果は「恐るべし名古屋」と呼ばれる地域協働に結びついています。各地域の大学が、名古屋大学のモデルを見ながら、それぞれの地域に相応しいやり方を試みようとしています。

「モノ」はシステムや工法、教材作り。研究成果を統合化して、皆が使えるより良いものを作っていく。

この3つをうまく回して社会を変えていこうとしています。何が何でも地震で不幸になる人を減らしたいという強い思いがあるからです。

地道なことですが、人とのネットワーキングづくり、大学人が良き応援団になる。それが僕たちの仕事です。

福和伸夫教授

民間建設会社を経て大学人になる。建築物の耐震研究を行う傍ら、地震防災力向上のため、様々な人たちと幅広く協働・実践。国や自治体の防災施策の立案に関わりながら、防災教材「ぶるる」片手に国内外の防災啓発・教育に飛び回る。本年度、文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞。

